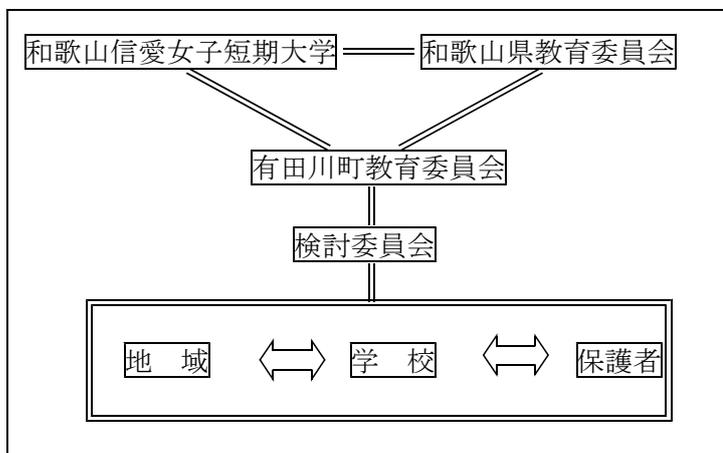


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	和歌山県
推進地域名	有田川町

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 食の自己管理能力を身につけさせることを到達目標とした、教科等と関連した食に関する授業を行うこと。

(1) 系統性・教科との関連を図った指導の充実

- ・食に関する授業の改善を目指して、食に関する指導の全体計画を作成し、その計画に基づき、授業を進めた。授業の際は、課題解決に向けた方策を自分で見つけさせることや、実物を用いた指導、体験活動などを行い、自分の食生活と結びつけて学習できるよう心がけた。
- ・教科担当教員やクラス担任とTTで食に関する指導を実施するなど、教職員と栄養教諭が連携し、学校全体で食育を推進するための校内体制作りを図った。
- ・食に関する指導の研究授業を提案し、研究協議を行うことにより、食に関する指導を行う学校栄養職員や保育士の指導技術の向上を目指した。



(2) 朝食アンケートの実施（朝学習）

11月に全校生徒を対象に、朝食アンケートを実施した。アンケートの集計や考察は給食委員会で行い、生徒達に自らの課題に気づかせた。この結果は、文化祭で展示発表した。

(3) 骨密度測定の実施 (総合的な学習の時間)

自分の健康に関心を持たせることをねらいとし、1・3年生を対象に骨密度測定を行った。測定の前に、骨密度測定の意義やカルシウム摂取の重要性についての授業を行い、測定に臨んだ。測定後は、結果をもとに日頃の食生活を振り返らせた。これから自分の健康作りのために、どのようなことに注意すればよいかを考えた。



(4) 栽培、調理実習 (特別支援学級)

特別支援学級で、春植え野菜(きゅうり・ゴーヤ・オクラ等)に続き、秋植え野菜(にんじん・きゃべつ・白菜等)を栽培した。苗の購入から、植え付け、日々の世話をし収穫を迎えた。収穫後は、キムチ作りをしたり、給食に取り入れたりした。一連の活動を通じ、生徒達はねらいのひとつである自立への自信をつけることができた。



(5) 「食生活と健康」 (保健体育科)

「食生活と健康」の単元で、教科担任とともにTTで授業を行った。バランスのよい栄養摂取の方法やエネルギー消費について、具体例を示しながら指導した。実際にエネルギーの計算をさせたりしたが、大変興味を持って取り組み「しっかり食べて、しっかり動く。」ことの重要性に気づくことができた。

テーマ2 郷土料理・伝統料理の継承のための取組を行うこと。

(1) 食文化の学習

吉備中学校の家庭科「私たちのより豊かな食生活」の単元で、生徒達が郷土料理について家族に聞き取り調査を行った。郷土料理の由来や調理法、またその写真などをレポートに作成し、発表会を行った。そして、地域の方を講師にお招きし、「冷や汁」の調理実習を行い知識を深めた。使用食材は、地域の生産者より購入したもので、生徒達は地元の食材にも目を向けることができた。

(2) 郷土料理・伝統料理の体験学習

田殿小学校5年生の総合的な学習の時間に、「田舎みそづくり」の体験を行った。事前に大豆の加工品についてや、みそづくりの工程について事前学習を行い、3日間かけたみそづくりに挑んだ。熟成後は、各家庭に持ち帰った分はお正月の雑煮に、一部は3学期の給食に、一部は町内の駅伝大会で参加者に豚汁として振る舞った。



(3) キッピー教室での「こんにやく作り」

有田川町では、こんにやく芋が多く栽培されているが、ほとんどの児童はそれを見たことがない。以前は家庭でも、こんにやく作りが行われていたが、今はそれも少なくなっている。今回は、地域の方にも協力をして頂き「こんにやく作り」を行った。



(4) 手作りみそで「みそ汁作り」

9月に3日間かけて仕込んだ「みそ」を3ヶ月熟成した。熟成後の樽開けを児童とともにいった。早速この「みそ」で、みそ汁の調理実習を行った。また家庭へも持ち帰り、お正月にこの「みそ」で雑煮を炊いてもらうこととした。多くの時間と労力を費やしたこの活動は、地域や家庭の協力なくしては行えないもので、児童に食の重要性を知らせたり、感謝の心を醸成させるよい機会となった。

(5) 「アマゴ」を焼いて味わおう。

清流有田川で養殖されている「アマゴ」を炭で焼き、食べることを実施した。地域の職人さんに来て頂き、アマゴに串をうつ方法を教えてもらった。そして、炭を自分たちでいこし、アマゴを焼き、一人1匹ずつ試食した。食が細い学年であるが、自分たちで魚を焼き上げることで、食べてみようとする意欲を高めることができた。日頃、馴染みのうすい川魚のおいしさを味わうことができた。

また、「炭をいこす」体験は、社会科の昔の暮らしを知る単元の発展学習とさせた。

テーマ3 社会教育・家庭・地域の活動と連携した取組を行うこと。

(1) 連携した活動（有田川町学園構想）

有田川町では、中学校区ごとに特色のある教育の創造に取り組んでいる。それを更に充実・発展させる「学園構想」を打ち立てて、学校・保育所・関係機関・家庭・地域等が連携し、地域の子どもの豊かな成長を担保するよう努めている。

本町が推進する「学園構想」とは、0歳から15歳までの成長を見通し、行政組織の違いを超え、保育所や学童保育と小中学校が連携を深める中で、一貫した教育を目指す教育構想である。学園長（中学校長）と外部の理事長が中心となって、会議や研修、行事等を企画運営し、教育関係相互の交流を推進する中で、一貫した教育指導方針を策定し、保護者や地域の方とともに中学校区を基本的な「子育てのまとまり」として、教育を推進していくものである。

東西に長く、産業や文化に地域性が見られる本町においては、5つの中学校区を単位にした学園構想により、それぞれの学園で、取組を進めている。栄養教諭が、本町の吉備中学校（近隣小学校を兼務）に配置されたことから、それを契機に、学園構想のもと中学校区において食育の推進に取り組み出した。

(2) 公民館活動との連携

田殿公民館主催で行われている「田殿子ども料理教室」とタイアップし、「自分で作ってみようおいしい朝食」をテーマに実習を行った。

(3) 町社会福祉協議会との連携

デイサービスに参加しているお年寄りと6年生が、郷土料理である「なれずし」で交流を行った。お年寄りになれずしの由来や作り方を、教えていただいた後、一緒に試食した。



(4) 吉備中学校生徒による保育園児に対する食育指導

保育園の子どもはもとより、演じる中学生の食に関する意識を目指して、生徒が、「何でも食べよう」をテーマにしたエプロンシアターを藤並保育園3歳児のクラスで行った。

(5) 食育の啓発

地域住民を含めたきび学園の食育推進を図るために、普及啓発リーフレットを作成し、保護者等に配布した。

テーマ1～3に共通する具体的計画

家庭や地域における食事内容の充実に向け指導していくことが課題であり、食の大切さを啓発することが必要である。そこで、小浜市教育委員会や栄養教諭が配置されている小浜市立小浜小学校の取組をお聞きすることで、家庭や地域への啓発方法のヒントを得ることができた。

また、地域住民を含めたきび学園の食育推進を図るために、普及啓発リーフレットを作成し、配付することができた。

数字で変化のあった事項について

- ① 「H22. 5. 21実施吉備中学校（2年生）の朝食アンケート結果から」
朝食摂取率 79%（h21年度） → 94.6%（h22年度）
- ② 「H22. 10月実施田殿小学校（5年生）の朝食アンケート結果から」
朝食摂取率 97%（h21年度） → 100%（h22年度）
- ③ 「朝食の内容について（中2年生）」
主食+主菜+副菜そろえて食べている生徒の割合
H22年5月 7.1%
↓
H22年11月 13.4%

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- (1) 吉備中学校区（きび学園）では、児童生徒の実態をふまえ、子どもの発達の段階に応じ、乳幼児期から中学校期までの3つの年齢層に区分し、それぞれの年齢層における食育に関する目標を設定することができた。
- (2) 栄養教諭や栄養士が、保護者に対して各発達年齢に応じた話を一貫性をもってすることができるようになったり、家庭教育で大事なことについて全体で取り組めるようになってきた。
- (3) きび学園長が栄養教諭配置校の校長であり、学園内での情報が栄養教諭に効率よく伝わるように

なった。そのことにより、それぞれの学校や保育所において食育指導をおこなう指導者の悩みや意見・要望に栄養教諭がすぐに対応できるようになった。

- (4) ご飯を主食とする朝食・朝食にふさわしいおかずの調理実習を授業参観で「親子クッキング」として計画し、実施した。参観後の学級懇談会で、保護者から家庭での食生活の様子を聞かせてもらったり「朝食の工夫について」話し合った。保護者からは、調理実習を通して、家でも作ってみたとの声が寄せられた。



- (5) テーマ1～3の取組により、食に対する意識が高まりつつあり、朝食摂取率が向上した。
- (6) 小学校では、実物に触れたり、味わわせたりの体験活動を含む授業を多く行うことができたので、写真や映像を見せるよりも、格段に児童の食への関心を高めることができた。
- 田殿小学校で行った食に関する指導の学習指導案や教材を近隣の学校栄養職員と共有することで、他校へ食育を広めることができた。
- 中学校では何度か朝食アンケートを実施したが、生徒に自分の食生活を振り返らせるよい機会となり、朝食の重要性に気づくことができた。この結果を給食便りで保護者にその都度知らせ、家庭への啓発にもつなげることができた。また、アンケートを生徒に集計させたり、考察をまとめさせた事で、自分たちの課題に気づくよいきっかけとなった。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

本事業の指定を受けたことで、実習を伴う体験活動が多く計画できたり、ゲストティーチャーの方に授業に入って頂くことで、行き届いた指導を行うことができた。

食育は、やはり地域の方の協力が必要であるし、実際の食品に触れさせたり、味わわせる体験をさせることが有効であると考え、学校でその予算をどのように確保するか教育委員会と検討していく必要があると思われる。

食育を吉備中学校から発信し地域全体で食に関する意識を高めていくために、きび学園のつながりをさらに強化し、学園の中に、食育推進部のような組織を設けさらに、保育所、小学校、中学校で、連携して食育の推進に努めていきたいと考えている。

食に関する授業の充実を図るためには、今後、きび学園における発達段階に応じた食育の取組方針のもと各保育所や小学校、中学校で取り組む系統的な食に関する指導カリキュラムを今後作成する必要がある。